

平成27年度事務事業評価シート(26年度実績)

◎基本情報

事務事業名	「なると環境スクール」推進事業		担当部署	教育委員会 学校教育課	
総合計画体系			根拠法令 計画など		
基本政策(大項目)	2	ずっと笑顔で生きがいを感じるまちづくり	事業 期間	開始	平成 ▼ 21 年度
政策(中項目)	3	たくましく生きる力を育むまち なると			終期
(小項目)	学校教育				
施策	3	義務教育の充実			
基本事業	8	環境教育の充実			

◎事業概要(PLAN)

事業対象	誰(何)を対象にしているか	<input type="checkbox"/> 個人 <input type="checkbox"/> 世帯 <input type="checkbox"/> 団体 <input type="checkbox"/> その他 <input type="checkbox"/> 内部管理 市内の公立幼稚園・小学校・中学校						
事業目標	対象をどのような状態にしたい(目指す)のか	子どもたちの環境学習・環境保全活動を促進・支援するため、優良校(園)の表彰や電気量削減額の一部を学校(園)に還元する。						
事業計画	26年度に何を計画していたか	全ての幼稚園・小学校・中学校が環境教育の推進を教育計画に位置づけ、なると環境スクール認定校(園)として、環境教育、環境保全活動を推進・支援するため、光熱水費還元システムを実施し、優良実践校(園)を表彰する。 還元額については平成25年度に算出方法の見直しを行い、平成26年度についても引き続き同じ算出方法を用いて還元額を決定する。						
成果目標	事業目標の達成度合	指標名	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	単位
		電気量削減率(基準年比)	-2.0	-2.0	-2.0	-2.0	-2.0	%

◎実施結果(DO)

事業実施内容	26年度は目標を達成するため、手段としてどのような活動を行っているのか	光熱水費の削減だけでなく、各学校(園)それぞれが取り組んでいる環境学習等の活動報告書を基に、1月の運営委員会において、認定基準を満たしている幼稚園と小・中学校をなると環境スクール認定校(園)として認定した。また、認定校(園)の中でも、特に素晴らしい取組を行っている、幼稚園2園・小学校2校・中学校1校を選定し、3月に表彰した。					
事業実施手法	<input checked="" type="checkbox"/> 市実施 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> その他						
指標名		25年度実績	26年度実績	27年度目標	28年度目標	29年度目標	単位
活動指標 実施した事業の活動量を示す指標	1 電気量削減額	1,359	450	450	450	450	千円
	2 なると環境スクール認定校(園)	38	34	34	34	34	校
成果指標 対象にどのような効果があったかを示す指標	電気量削減率(基準年比)	-5.7	-1.7	-	-	-	%
	目標達成率(実績/目標)	85.0		-	-	-	%
今年度の進捗状況	ほぼ計画どおり		事業全体の進捗状況		ほぼ計画どおり		

(千円)

財源内訳	年度	区分	国	県	地方債	その他特定財源	一般財源	事業費計
	平成26年度	当初予算額	0	0	0	0	0	0
		全体予算額	0	0	0	0	862	862
		決算額	0	0	0	0	848	848
		繰越額	0	0	0	0	0	0
		人件費	正規職員(6,878千円/人)	臨時職員(2,023千円/人)		総人件費		総事業費
0.1	0.0		688	1,536				

年度	25年度決算	26年度決算	27年度	28年度	29年度	
事業費推移	事業費	1,271	848	800	800	800
	うち一般財源	1,271	848	800	800	800
	人件費	652	688	688	688	688
	総事業費	1,923	1,536	1,488	1,488	1,488

◎項目別評価(CHECK)

評価項目		評価値		所見欄
①活動に対する評価	有効性	B:概ね有効性があった		環境に対する意識は年々高まってきているが、電気量削減に関しては、学校の努力だけでは難しい状況にある。
	効率性	B:概ね効率的だった		削減額の1/2を消耗品費として還元しているため、事業費は効率的に執行している。
②成果に対する評価	指標名	電気量削減率(基準年比)		電気量の削減に関して、学校・幼稚園の努力だけでは、今以上の成果をあげるのは難しい状況まできている。
	目標	-2.0	%	
	実績	-1.7	%	
	評価	B:概ね目標を達成できた		
③総合的な評価		B		本事業は、継続することで成果が現れる事業であるため、今後も継続して事業を進めていくことで、鳴門市の環境教育充実を図る。

◎今後の方向性(ACTION)

課題	平成26年7月に全ての中学校にエアコンが整備されたことに伴い、電気使用量の増加が見込まれるため、運営委員会で基準年等の見直しを行い対応したい。また、少子化の影響で生徒・園児数が減少し、使用教室数が減ったことによる電気使用量の減少や、耐震工事等に伴い、白熱灯からLED電球に変更したことによる電気使用量の減少など、学校(園)間の電気設備環境や使用環境等による格差が問題となっているので、還元方法について検討が必要である。				
今後の方向性	1.廃止	2.要改善	3.現状維持	4.拡充	3
↓今後の方向性を踏まえた上で、以下の欄に記入してください。					
実施内容	H27年度	学校・幼稚園の設備整備状況に配慮しつつ継続して実施する。			
	H28年度	学校・幼稚園の設備整備状況に配慮しつつ継続して実施する。			